



イマジン ロータリー
RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

2022-2023年



Rotary District 2640 Japan
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST
海南東ロータリークラブ
会長 中村 俊之 幹事 千賀 知起 SAA 田中 淳

第 2114 回例会

2022 年 10 月 24 日(月)

海南商工会議所 4F 12:30～

ゲスト卓話 海南青年会議所

「えきまえイルミネーション」事業について

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. ゲスト紹介 海南青年会議所
理事長 角田 周士郎 様
同 子供たちの未来をつくる委員会
委員長 島田 成生 様
4. ビジター紹介 和泉 RC 中 勇人 様
(地区幹事)
5. 出席報告
会員総数 45 名 出席者数 20 名
出席義務規定適用免除会員 3 名
出席率 48.78% 前回修正出席率 70.73%

6. 会長スピーチ 会長 中村 俊之 君

皆さんこんにちは、本日も例会に出席いただきありがとうございます。先ず、和泉RC所属・地区幹事の中 勇人(なか はやと)様、ようこそ海南東RCへお越しくださいました。会員一同、歓迎いたします。



さて、本日 10 月 24 日は「世界ポリオデー」として、世界がひとつになってポリオ根絶を応援する日となっています。ロータリーは、過去 35 年以上にわたりポリオ根絶活動を行ってきました。ポリオを世界からなくすという私たちの目標は今、達成まで本当にあと少しのところにあります。引き続き根絶に向けて活動の支援をしていきたいと考えています。皆様も引き続きご協力お願いいたします。

本日卓話は海南青年会議所さんに「えきまえイルミネーション」事業について講演していただきます。海南青年会議所理事長の角田周士郎(すみた しゅうじろう)様、子ども達の未来をつくる委員会・委員長の島田成生(しまだ なりせい)様、後ほど直前理事長 寺下 裕嵩(てらした ゆたか)様もお

越し頂けるとお聞きしています。

本日は公私お忙しい中、海南東ロータリークラブ例会にお越しいただき誠にありがとうございます。


皆さんもご存知かとは思いますが、「えきまえイルミネーション」は 2019 年より開始され今年 4 年目を迎える、和歌山マリーナシティで行われる「フェスタルーチェ」の玄関口である海南駅前を駅前広場の 7 本の街路樹に細かな LED 電球を、大きな木には球体の飾りを付け、一帯を彩るイベントで、冬野風物詩となっています。補助金事業として開始され 4 年目を迎え、夏の『ふるさと海南まつり』と同じく街ぐるみのイベントとして協賛を募り、2023 年には実行委員会を立ち上げる計画となる予定とお聞きしています。海南東RCも協賛団体として本年 7 月 27 日の調印式にて調印してきました。

我々ロータリークラブも、RCC(ロータリー地域社会共同隊)など、地域他団体との共同事業が重要視されてきおり、ロータリーのネットワーク、ブランド力、会員の専門知識などを生かし、持続可能なプロジェクトを通じてよりよい地域社会をつくることを目指し、地元の人たちの知識や能力を引き出すと同時に、ロータリーのインパクトと参加者基盤の拡大を促していかなければなりません。またこのような活動を通じともに活動することで将来の会員増強にもつながるものと考えています。後ほどご講演よろしくお願いたします。

【報告事項】

地区大会記念ゴルフ大会 10 月 18 日(火)に有田東急ゴルフクラブにて開催されました。参加していただいた、谷脇さん、寺下さん、楠部さん、前田さんお疲れ様でした。

**10 月は地域社会の経済発展月間
米山月間です。**



地区大会

「行動し、実践することにより、
“ロータリーの輪”を広げよう」

2022年11月5日～6日 和歌山城ホール
ホテルグランヴィア和歌山
記念ゴルフ 10月18日 有田東急ゴルフクラブ

四つのテスト 実行はこれにからしてから

①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002
海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

次に、毎年行っている、こども食堂への支援を今年も行います。黒江子供食堂「おなかすーた」へは11月16日水曜日17時30分頃。内海 きうち子供食堂へは、11月18日金曜日16時頃から。紀美野きこの食堂へは、12月9日金曜日17時頃から。

訪問し寄付金をお渡しします。社会奉仕委員会委員会のメンバーさんにはライングループにて既に連絡させていただいています。今のところ、紀美野きこの食堂さんへは、山畑さん、楠部さんが、黒江こども食堂さんへは毎月お手伝いとして参加されている榊原さんが一緒に行っていただけることとなっています。会員の方で一緒に行っていただける方は事務局までご連絡をお願いします。

最後になりますが、クラブ定款（第13条 第5節）、クラブ細則第3条第1節の定めるところにより、次年度役員、理事を選挙するための候補者を立てるため、年次総会の1か月前の例会において指名委員会の設置をお諮りしなければなりません。つきましては指名委員会メンバーを理事会メンバーとしたいと考えています。ご承認お願いいたします。

7. 幹事報告 幹事 千賀 知起 君

○例会臨時変更のお知らせ

- 那智勝浦 RC 11月10日(木)→11月10日(木)
大門坂石碑周辺の清掃
- 和歌山中 RC 11月11日(金)→11月9日(水)
18:30～ アバローム紀の国
(和歌山東南 RC との合同例会)
- 和歌山北 RC 11月14日(月)→11月14日(月)
18:30～ アバローム紀の国
(和歌山アゼリア RC との合同夜間例会)
- 粉河 RC 11月16日(水)→11月16日(水)
8時集合 社会奉仕作業
(黒津時計塔付近除草)
紀の川市黒土 国道24号線
11月30日(水)→11月30日(水)
ワイン例会 御坊市
- 和歌山東 RC 11月17日(木)→11月18日(金)
16時～ 長野県松本市ホテルブエナビスタ
(松本空港 RC 創立35周年記念式典)
- 田辺東 RC 11月30日(水)→11月30日(水)
12:30～ 移動例会 (株)カナセ

○休会のお知らせ

- 那智勝浦 RC 11月3日(木・祝) 24日(木)
- 和歌山中 RC 11月4日(金) 25日(金)
- 和歌山北 RC 11月7日(月)
- 田辺東 RC 11月23日(水・祝)
- 粉河 RC 11月23日(水・祝)

○新事務所への移転のお知らせ

- 海南 RC 新事務所 : 海南市名高504-1
- 例会場 : 同上

8. 委員会報告 米山奨学委員長 重光 孝義 君

今月は、米山月間です。今月最後の例会です。今一度、皆様のご協力をお願いします。

9. ゲスト卓話

海南青年会議所 理事長 角田 周士郎 様
同 子供たちの未来をつくる委員会
委員長 島田 成生 様

はじめに、海南青年会議所について少しだけご紹介いたします。私たち海南青年会議所は20歳から40歳までの青年が、「地域を元気にしたい!」という目標に向かって活動しています。



昨年は、4月にロボットプログラミングを体験しようを開催し、30名の小学生にプログラミングを学ぶ機会を提供しました。7月には、テイクアウトマルシェイン海南を開催し、キッチンカーを中心に店出いただき、ドライブスルー形式で販売するイベントを開催し、500名の方にお越し頂き、コロナ禍で落ち込んだ飲食業界と地域を盛り上げました。

えきまえイルミネーションについてご説明させていただきます。2019年にはじめたこの事業は、海南駅西広場をイルミネーションで彩り、エリアに付加価値を与えることで、多くの人々に集まっていただける場を創造し、地域活性化の一助となることを目指し開催してきました。また、昨今の新型コロナウイルス感染拡大にも負けず、毎年さまざまな趣向を凝らしたイルミネーションの点灯を行っております。

第1回えきまえイルミネーションは、和歌山マリナーシティで、イルミネーションの点灯を行っている、フェスタルーチェ実行委員会様とのコラボレーションで初声(うぶごえ)をあげました。

初日には、海南市長を招き、点灯式を盛大に行いました。この日は飲食ブースの出店やオリジナル竹灯籠などの作成を行い、約1,000名の人々に参加して頂き、大いに盛り上がりしました。予算は約150万円、

うち自己資金 72万円、海南市のまちづくりイベント補助金 50万円、団体、企業様からの協賛金 28万円です。翌年の第2回えきまえイルミネーションは、新型コロナウイルス感染症の影響で、点灯式を盛大に開催することはできませんでしたが、サンサタウン中央通り店会にもご協力頂き、海南駅前西広場から海南 nobinos までイルミネーションのエリアを拡大しました。予算は約190万円、うち自己資金 28万円、海南市のまちづくりイベント補助金 40万円、団体、企業様からの協賛金 123万円です。そして昨年の第3回えきまえイルミネーションは、点灯式の前にキッズコレクションを開催しました。海南市、紀美野町の小学生がプロの美容師に



メイクをしてもら
い、自分の好きな服
装でランウェイを
歩くイベントを開
催しました。点灯式
には、神出市長とフ



ェスタルーチェ実行委員会 古澤会長、キッズコレ
クションの優勝者に点灯ボタンを押してもらい、盛
り上げて頂きました。予算は約 152 万円、うち自己
資金 72 万円、海南市のまちづくりイベント補助
金 30 万円、団体、企業様からの協賛金 50 万円
です。

過去 3 回の開催を経てえきまえイルミネーションは、海南の冬の風物詩として認知されてきました。これからのえきまえイルミネーションは、海南市を元気にしたい人たちが、みんなで活用できる場所を作りたい！地域の人たちで作り上げるイルミネーションにしたい！地域の人たちをつなげて海南市に活気を取り戻したい！えきまえイルミネーションをきっかけに、多くの人々が輝き、その活動が一つになることで、海南市が活気あふれる街になってほしい、そんな未来を目指しています。今後は皆様と共に作り上げていくために「えきまえイルミネーション実行委員会」を立ち上げる計画をしております。海南市観光協会、海南商工会議所青年部、自治労海南市職員組合、海南特産家庭用品協同組合、海南納税協会、海南東ロータリークラブ、紀州漆器協同組合青年部、海南青年会議所が発足時の実行委員会を組織して取り組みます。皆様のご協力をお願いします。

9. 閉会点鐘

次回例会

第 2115 回 2022 年 11 月 7(月)
海南商工会議所 4F 19:00～
お誕生日、結婚記念日のお祝い



ニコニコ・BOX

| | |
|-------------------|---|
| 中 勇人 様 (和泉 RC) | 本日メーキャップします。よろしく お願いします。 |
| 寺下 卓 君 | 中さん (和泉 RC) ようこそおい で下さいました。 |
| 中村 俊之 君 | 和泉 RC の中様、海南 JC 角田様 島田様、ようこそおいで下さいま した。 |
| 千賀 知起 君 | 〃 |
| 田中 淳 君 | 〃 |

Rotary NEWS

ヒューマンタッチ

ロータリアンの家に避難した ウクライナ人家族のストーリー

2022 年 2 月 24 日、ロシアがウクライナに侵攻し、その第 22 部隊がウクライナ南東部のドニエプル川沿いの街、ザポリージャの原子力発電所へと進みました。モルフンさんの家族は、そのザポリージャにありました。

オレナ・モルフンさん (薬剤師)：戦争が始まったことを知ったのは夜でした。夫に起こされ、ウクライナが砲撃され、ロシア軍がウクライナの国境を越えたと言われました。夫は、戦争があるうちは私たちに国内にはいてほしくない、ウクライナ東部から離れてほしい、と言いました。私たちがどこにどうやって行くかを話し始めたのはその時でした。

アリサ・モルフンさん (オレナさんの娘)：戦争開始の前日、私は友人を訪ね、彼女の家に一晚泊りました。朝 6 時ごろに起こされました。まだ眠かったことを覚えています。「ウクライナで戦争が始まった」と伝えられ、それがとても不思議に思えました。最初は意味がよく分らなかったのですが、ニュースを読んで、だんだん分かってくるんです。自分の日常が壊されるというのは、なかなか一瞬では理解できないものです。

「ソフィアさんは絵も描き、とても上手」と RI スタッフのカメラマン、モニカ・ロジンスカは話します。「写真では笑顔ですが、心の中はまったく違うかもしれません。この子は控えめで物静かな方です。プライベートな話をしたとき、手を握ると、彼



女が「過去のトラウマ」だと話す傷跡が腕にあるのが見えました。そのときの表情は悲しそうでした。彼女は親友に会いたがっています。みんなバラバラで、また会える日が来るのかも分かりません」、オレナ・モルフンさんと娘のアリサさん、ソフィアさん、息子のヴィタリイさん。

「大学に通うアリサさんにとっては難しい状況でも、人と連絡を取り合い、勉強を続け、少しでも普通の生活ができる方が楽なのです」とウィドリッキさんは話します。「一方、ソフィアさん

はとても繊細です。彼女は芸術家の心を持っています」。ヴィタリイさんが見守る中、ポーランドのロータリアン、クリスティナ・ウィルチンスカ・チェミウクさんと本を読むティムール・シャキロフさん。「二人の少年はごく自然に一緒に遊んでいました」と話すのは、国際ロータリー・チューリッヒ事務局のキム・ウィドリッキです。「何年も前からお互いを知っているようでした。家族のように、彼らの間にはとても素晴らしい絆がありました」



2月27日、オレナ・モルフンさんは娘のアリサさんとソフィアさん、息子のヴィタリイさんと共にザポリージャを後にしました。

オレナさん：私たちはリヴィウまでの避難列車に乗ってザポリージャを発ちました。ウクライナ西部に残るつもりでしたが、列車を降りてリヴィウの人たちと話す時、そこから離れたほうがいいと言われました。彼らの街も砲撃されたのです。安全だと思っていた場所が、実は安全ではなかった。ウクライナ全土が危険にさらされていたのです。ボランティアの女の子が一緒にいてくれて、夜中もずっと話をしました。彼女のおかげで、ポーランドに行く決断をすることができたのです。その子のことは一生忘れません。

アリサさん：ポーランドの国境を越えるとき、どこに行くのか、何をするのか、まったく分かりませんでした。計画もなにもなかったんです。ただ、最善を尽くしたいと思っていました。歩いて国境を越え、配送センターにたどり着きました。そこでボランティアの人たちが助けてくれました。彼らは、ウクライナ難民を助きたい人たちを見つけて、彼らの家へと連れて行ってくれたのです。

4日間にわたる700マイル以上の旅の末、モルフンさん一家はポーランドのPulawyに到着しました。そのロータリー会員であるクリスティナ・ウィルチンスカ・チェミウクさんは、息子のグルゼシオさんとその妻ヴェロニカ・コワルスカさんと一緒に暮らしています。彼女は、モルフンさん一家のほ



かにも二人（ザポリージャ出身のウルザナ・シャキロヴァさんとその息子ティムールさん）に家を開放しています。

4月末になると、モルフンさん一家はウクライナに帰れないことが分かりはじめ、不安な将来設計を迫られることになりました。

オレナさん：頭の中は、いつもウクライナのことです。とても辛いんです。どうすればいいのか、どうやって生きていけばいいのだろうか。計画があるといえばあるのですが、それはただ一つ、家に帰ることです。でも、この計画がすぐに実現するものではないことを理解しています。だから、ポーランド語を勉強したり、仕事を探したり、小さな計画を立てています。

アリサさん：将来の希望、夢は何かというと、ザポリージャは私が生まれた街なので、そこに戻りたいです。1週間後か2年後なるか、何も分からないまま故郷を離れました。だから、まずはウクライナに、私の故郷に戻りたい。そして自分の人生を歩みたい。それはすぐには無理かもしれないし、何年後になるかもしれませんが。一生できないかもしれませんが。その場合は、どこか別の場所で人生を歩むしかないでしょうね。

クリスティナさん：1993年、Puławy ロータリークラブが設立された当時、議員や政治家になって人のために行動しようと思ったら、社会活動家の魂を持っていなければならないという思いがありました。それは、ポーランドではよく言われることで、私たちは皆、それができるグループに属していました。人のために行動するということが、私たちの性格の中ですでにあったのです。ロータリーの標語である「超我の奉仕」のように。ロータリークラブに所属する私たち全員にとって、それはごく自然なことなのです。

この記事は、Rotary誌2022年10月号に掲載され、全世界で紹介されました。

2023年メルボルン国際大会にご登録ください！

